

みおしえ



浄土宗と家康公



市川陽山謹



埼玉教区浄土宗青年会

<http://www.saijousei.com>

浄土の再会、甚だ近きにあり。

今の別れは暫しの悲しみ、春の

夜の夢のごとし。

法然上人御法語

《意味》

浄土での再会は間もなくのことです。今の別れは、しばしの悲しみに過ぎず、春の夜のはかない夢のようなものです。

「南無阿弥陀仏」と念仏を称える人は誰でも人生の終わりに阿弥陀様が迎えに来てくださり、西方極楽浄土に導いて下さります。極楽の世界で再会できるのです。これを「俱会一処」といいます。

「向こうに行っても見守ってください」

このような言葉をよく耳にします。亡くなった大切な方が遠くから見ていてくれる、亡くなった人があたかもそこにいるかのように話しかける。死によって関係が終わるわけではない、どこかにいて「また会うことができる」。そのような考え方が漠然ながらもあるのではないでしょうか。

私は中学生の時に祖母、祖父を亡くしました。臨終に立ち会い、人が亡くなっていく姿を初めて目の当たりにしました。今まで当たり前になっていたがいなくなる、当たり前にあつた生活が変わってしまう。自分の一部が抜け落ちてしまったことに對する、息苦しくなるようなもの悲しさ、不安を感じておりました。

年月が経ちまして、ある時祖母を亡くした時のことをふと思い出したことがあります。私の寺では七月の終わりに子ども達を集めて一緒に楽しい時を過ごしたり、お念仏をお称えしたりする子ども夏季僧堂を開いています。短い間ですが子ども達と楽しい時間を過ごさせていただいております。ですが夏季僧堂が終わりますと、私の名

残惜しい気持ちとは反対に、子ども達は元気いっぱいです。帰る時には振り返らずに帰ってしまいます。「お兄さん、さようならー」「この後、友達の家に行くんだ」「お母さんが迎えに来た」「またねー」。見送る立場とは寂しいもので、子どもの声が絶えずしていた本堂に、私一人になってしまいます。文字通り、空しい心持ちです。祖父母を亡くした時の気持ちと重なるものがありました。

しかし、「来年になればまた会える。」そう思うと私の空しい気持ちも慰められます。冒頭にあげた法然上人の御言葉は、「浄土での再会は間もなぐのことです。今の別れは、しばしの悲しみに過ぎず、春の夜のはかない夢のようなものです。」という大切な亡き方との極楽での再会について述べた言葉です。大切な方とまた再会できる。このことがどれだけ残されたものの心の支えになるか、「また会える」ことを約束されることでどれだけ前向きになることができるか。

人が亡くなる、ましてやそれが大切な人であればある程、死は生活を変えていきます。変わらないものはないと知りつつも悲しいことです。しか

し極楽に往けば「また会える」のです。季節が巡りまた春が来るように、また来年になって元気な子ども達と会えるように「また会える」のです。私たちも阿弥陀様にお迎えいただき極楽へ往くために念仏を称えましょう。そこは、大切な亡き方と再会できる所でもあるのですから。

「南無阿弥陀仏」

合掌

執筆 常福寺 渡邊龍彦



表紙の解説（浄土宗と家康公）

鳴かぬなら鳴くまで待とうホトトギス

表紙絵は、皆様にもなじみの深い徳川家康公です。家康公と浄土宗とのかかわりは、徳川家が三河で松平姓を名乗っていた時代にまでさかのぼります。特に松平家四代目、親忠（ちかただ）公は信仰心が篤く、大樹寺（愛知県岡崎市、現在徳川家歴代將軍の位牌を安置）を創建されました。この親忠公は、お坊さん以外ではじめて五重相伝（お念仏のみおしえを伝える大切な修養会）を受けた人として知られています。この松平家九代目が、家康公です。

こうした背景もあり、家康公は二五九〇年関東入部にともない、増上寺第十二世、存応上人に帰依し、増上寺を徳川家の菩提寺とします。また、京都総本山知恩院は徳川家の永代菩提所であり、増上寺とともに「三つ葉葵」を寺紋としていることから浄土宗と徳川家の関係がうかがい知れます。

家康公は、晩年、六万遍のお念仏を称えたといわれています。この家康公の戒名は、「安国院殿徳蓮社崇善道和大居士」。

一六一六年四月十七日に七五才でこの世を去っております。二〇一五年四月十七日は、徳川家康公の四〇〇回忌です。ともにお念仏を称え、ご回向いたしましょう。

解説執筆

浄信寺

石田浩臣

合掌

浄土宗の総大本山

総本山 知恩院（京都） 法然上人が比叡山を下りてのちお念仏教化の中心地に建つ。上人ご往生の地でもあり、墓所（勢至堂）がある。

大本山 増上寺（東京） 徳川家の菩提寺であり、歴代將軍の墓所がある。関東以北浄土宗寺院の中心。

大本山 金戒光明寺（京都） 通称は黒谷さん（くろだにさん）。法然上人直筆とされる一枚起請文が所蔵される。

大本山 知恩寺（京都） 通称は百万遍（ひやくまんべん）。疫病退散の為に念仏を百万遍称えたことによる通称。

大本山 清浄華院（京都） 皇室の帰依篤く、皇室の紋章、菊花紋を許される寺院。明治以降は葉菊紋を寺紋としている。

大本山 善導寺（福岡） 九州出身の浄土宗第二祖聖光上人により開かれた。九州の浄土宗寺院の中心。

大本山 光明寺（神奈川） 当山九世観誉祐崇上人の時、十夜法要を始める。浄土宗における十夜法要発祥の寺。

大本山 善光寺大本願（長野） 代々皇族の尼公上人（皇室ゆかりの女性）が法灯を継ぐ。天台宗寺院とともに善光寺を運営する。



発行 埼玉教区浄土宗青年会

会 長 宇高康哲

広報編集局長 名和清隆

無断複写を禁止します